

科学研究費助成事業（学術創成研究費）研究進捗評価

課題番号	19GS0211	研究期間	平成19年度～平成23年度
研究課題名	統合国際深海掘削計画（IODP）研究の推進：国際的リーダーシップの確立		
研究代表者名 （所属・職）	翼 好幸（独立行政法人海洋研究開発機構・地球内部ダイナミクス領域・プログラムディレクター）		

【平成22年度 研究進捗評価結果】

該当欄		評価基準
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

（評価意見）

本研究は、統合国際深海掘削計画（IODP）を主導し、地球システム変動の包括的理解を目指すものである。特に、我が国は最新鋭のライザー掘削船「ちきゅう」を提供・運営し、本研究で、

- (1) 海溝型巨大地震発生メカニズムの解明
- (2) 大陸形成過程の理解
- (3) 巨大マントル上昇流と地球環境変動の解明
- (4) マントルへの到達

を目指している。いずれも高い水準の先駆的課題ばかりであるが、既に順調に多くの研究成果が挙げられており、目標の国際的なリーダーシップの確立が期待される。

大規模研究計画 IODP の一部である本研究が、全体計画にどのように位置付けられているのか、特に経費面で両者の関連を明確にすることが望まれる。

【平成25年度 検証結果】

検証結果	本研究は、日本が統合国際深海掘削計画（IODP）で国際的リーダーシップの確立を目指し、世界を席巻する科学的研究成果を上げることを目的としている。その中心となるのがライザー掘削船「ちきゅう」を用いた超深度掘削研究であり、これにより地球生命科学の飛躍的な進展が期待されている。
A	<p>本研究は、四つのテーマで取り組みが進められ、海溝型巨大地震発生メカニズムの研究では、南海トラフ付加体浅部の広域応力場を明らかにした。大陸形成過程研究では、大陸が海で誕生するという大陸地殻形成モデルを提案した。これらの研究で四つの IODP 掘削提案を提出し、うち三つが実施されることになった。</p> <p>さらに、地球環境変動研究では、海洋の火山活動によって海洋無酸素事変が引き起こされたことを明らかにし、マントルからのサンプルリターンという先駆的課題を達成すべく、掘削可能な候補地の選定を行った。</p> <p>以上のことから、掘削船を用いた地球生命科学の重要な成果が着実に上がっており、本研究計画の推進、リーダーシップの確立に向け多大な進展があったと評価できる。</p>